

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.777 2018

2018年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料62円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
TEL：03-5367-6640 FAX：03-5367-6641
URL：http://www.ymcajapan.org/
発行人／神崎 清一 編集人／山根 一毅
印刷／あかつき印刷株式会社



ユースのチカラを引き出す



「18歳成人」を生かすために

田中 治彦（上智大学教授）

OPINION

2016年7月の参議院選挙から18歳の若者が選挙で投票できるようになりました。今年の通常国会では成人年齢を18歳に引き下げるための民法改正案が審議され、成立すると2022年度から成人年齢が18歳となります。

私は2001年に朝日新聞に「成人年齢18歳で参加社会に」と題して投稿して以来、18歳選挙権や18歳成人社会の実現を一貫して主張してきました。その理由は三つあります。一つは18歳の時点で就職して自活している若者が2割以上いるということ。18歳成人に反対する理由として「18歳はまだ学生なので自立していない」という意見がありましたが、少数といえども自活している若者の権利を尊重すべきと考えました。二つ目は若者の社会参加の促進です。若者は社会に参加していないように思われていますが、スポーツや芸能、ネット社会では活躍しています。しかし、政治の分野では少子化と若者の投票率の低さもあり、若者の意見が政治に反映されにくい。これを改善するために18歳選挙権が必要でした。三つ目に、国際的には9割以上の国々が18歳以下の選挙権を認めているということ。国連の子どもの権利条約でも、子どもは18歳未満と定義されています。

今後、少年法の改正や酒・たばこの問題も議論されることになるでしょう。日本社会は2020年代には「18歳成人社会」を迎えることとなりますが、何が変わるのでしょうか。実は与えられた権利を行使する者がいなければ何も変わりません。18歳成人社会は、若者が社会に参加し活躍するための「土俵」を整えただけです。若者自身が土俵に上がらなければ試合にはなりません。どうしたらそれが可能となるのか、若者も大人も共に考えてみようではありませんか。

(OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎月、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。)

ユースの秘められた力がYMCAの力

富山YMCA

駅前センター所長 上村 香野子
プレミアムともゆとりとも言われるユース世代。私たちが知らないことを知り、新しい感覚を持ち、柔軟性があり、SNSを自由自在に使いこなす。彼らを持つ力や可能性は計り知れないと、日々この世代と向き合いながら感じます。素直で真っすぐで成長を求め続ける彼らがYMCAと出会うことで生まれるものがたくさんあります。

湯朝さんはただ「面白そう!」、そんな好奇心で地球市民育成プロジェクト*に参加しました。この好奇心と度胸に期待して送り出した彼女のBefore-Afterには驚かされました。「英語ができなくても通じ合えたよ! 友達も仲間もいっぱいできたよ!」とキラキラした笑顔で帰ってきまし

た。その後の活動には目を見張るものがあります。特に小学生でも外国人でも、とにかく老若男女を問わず巻き込んだ、「表現することを喜びとするアートクラブ」は大きな反響を呼びました。

YMCAを働き場として活動し始めた彼女以外にも、YMCAには多くのユースが集います。彼らの秘めた力こそが、YMCAの力。この秘めた力に気付いて、引き出して、そして彼らと共に成長を続ける、まさに「みつかる、つながる、よくなっていく」YMCAの働きを大切にしていきたいと思えます。

ボランティアスタッフ 湯朝 望美
地球市民育成プロジェクトで出会った人たちは、私にとって新鮮でキラキラしていて、熱く

裏面へ

て、出会ったことのない人たちがばかりたちで引かれました。

自分の特技である「絵」

を使ったアクションプランを立て、YMCAでもっと



「新しい自分になっていきたい！」と心に熱いものを感じました。

現在ではアートクラブと学童保育の「先生」になりましたが、私の思う「先生」とは、人としての生き方を教えてくれる存在です。私はアートクラブでも学童保育でも「自分を表現すること」を生徒に伝えていきたいと思っています。

現代の日本社会では人と違うことをすることへ

の壁がある、と感じます。壁に閉じ込められている人たちの居場所を作り、彼らが楽しく自分を表現できるようになり、例えば海外にも行って新しい自分を表現してほしいというのが私の願いです。私自身も教えることを通して「自分を表現すること」を行いながら、人として、地球市民として、YMCAの一員として、経験を積み成長していきたいです。

*地球市民育成プロジェクト...グローバル時代を生きるユースの分析力・対話力・行動力を引き出すための通年研修

ユースに出会うことから始まるサポート

神戸YMCAユース委員会 委員長 家山 華子

神戸YMCAユース委員会は、世界のユースの動向に注目するとともに、ユースとつながり、ユースエンパワーメントに努めることを目的としています。現在、活動の柱は二つあります。

一つは、毎年6月に行われるワールドチャレンジに向けて、どのように盛り上げて行けるかを、チェンジ・エージェントと共に考え、Facebookなどを通じて情報発信し、委員も自ら率先して参加すること。

もう一つは、YY(ワイワイ)フォーラムの企画です。YYフォーラムはユース・リーダー、ワイズメンズ

クラブ、YMCAの職員が、世代を超えてワイワイ集まって、共に考え、情報を交換し、パワーをもらえる場です。昨年は2人のユース・リーダーから、福島の子どもたちを招待するキャンプと多様性を受け入れるキャンプの企画や、「Delight in the Night」という環境問題のアクションプランなどを発表してもらいましたが、とても刺激的なものでした。

今後は、もっとユースが主体的に参加できる機会を増やし、互いにエンパワーし合い、彼らが何かを生み出して行ける場づくりを、ユース委員会がサポート

する仕組みがつかれないかと模索中です。まずはユース委員がユースの居場所に出掛け、出会うことから始めようと考えています。ユースエンパワーメントは、一人ひとりに出会い、その個性に気づき、出会えたことを共に喜ぶことから始まるのではないかと考えています。

OPINION欄、田中治彦氏編著の本を紹介いたします。

『18歳成人社会ハンドブック
—制度改革と教育の課題』
明石書店 / 2,500円 (税別)

本の紹介

Positive Net NEWS

ポジティブネット...互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク

YMCAワールド・チャレンジ2018

2018年6月2日～15日、チェンジ・エージェントが呼び掛けて「ワールド・チャレンジ」が行われます！

1844年6月6日、YMCAが誕生したこの記念すべき日を世界中のYMCAで祝うため、世界YMCA同盟の呼び掛けで、毎年「ワールド・チャレンジ」は行われています。共通のテーマに沿った取り組みを行い、世界中のYMCAが一体となることを実感できるイベントです。

今年の共通テーマは「Run the YMCA World」。世界中のYMCA間の距離を歩いたり走ったりすることで、みんなでつなげていきます。日本のYMCAでは、「10分=1キロ」で計算していく形を取ります。参加者の一步一步が作っていくこのイベントはそれぞれのYMCAで結束を強めるだけでなく、日本全国、あるいは世界のYMCAとのつながりを生み出すとても大きな取り組みです。一人でも多くの方に参加していただき、みんなでYMCAの波を起こしていくことができると願っています。



この記事が掲載されているころ、日本の「ワールド・チャレンジ」はすぐに始まります。直接参加しなくても、Facebookの活動報告などを見て温かく見守ってください。

この活動を通してより多くの方々がYMCAについての理解を深め、つながりを持ち、YMCAという存在が発展していくことができるよう、チェンジ・エージェント一同全力で動いていこうと思っています。応援をお願いいたします。

ワールドチャレンジのFBはこちらから▶



第三期チェンジ・エージェント
桑原 ケビン 清治、四宮 捷平、中田 美沙希

アジア・世界のYMCAから

□バングラデシュYMCA ロヒンギャ難民救援プロジェクト

ミャンマー軍の武力行使により、現在約60万人のイスラム系少数民族ロヒンギャが隣国バングラデシュの難民キャンプに避難しています。バングラデシュ YMCA同盟は難民キャンプでの冬の寒さから身を守れるよう、暖かい子ども服と毛布の支援を行いました。



笑顔でうれしそうに家族のもとへ戻りました

□シンガポールYMCA 「Y Food and Love」プロジェクト

YMCAのボランティアと成人知的障がい者支援センターのメンバーが協力してマフィンを焼き、生活必需品と共に地域の高齢者に届けました。センターのメンバーは「マフィンを高齢者に渡すことができうれしかった。楽しかったので、他の人の手助けもしたい」とコメントしました。彼らが友だち以外の人と交わる機会になったと同時に、奉仕を通して社会に貢献できると気付く機会となりました。

□米国YMCA 多様性に優れた団体に選ばれました

経済誌『フォーブス』が発表した「多様性に優れている企業・団体」の米国内ランキングで米国YMCAが15位に選ばれました。コミュニティでの活動を中心に取り組む団体では1位を獲得し、多様性に富む米国の地域社会に対応する組織として、さまざまな文化や背景を持った人を雇用し、誰もが組織に参画する機会を持つ団体として評価されました。

●記事の続きは日本YMCA同盟の「世界のYMCA」ページに掲載しています。ぜひお読みください。

日本YMCA同盟 検索